Competition	競争
Playing Charter	ラグビー憲章
Integrity	品位 高潔
Safeguarding	保護 安全防護

スポーツは競争

スポーツの語源
・ラテン語　deportare
・中世フランス語　desporter
・中世英語　disport
どこかに運ぶ～日々の生活を離れる
気分を転じさせる～気を晴らす
楽しませる～遊ぶ
（中世：5世紀～15世紀）

・16世紀　英語　sport
貴族の遊び、野外での狩猟
ゲーム、ショー、見世物

・19世紀後半sport/sports(米)
英国パブリックスクールでルールづくり

・明治時代(1868～1912）スポーツ
三育「知育・徳育・体育」
学校対抗

「カルチョ・ストリコ」フットボールの起源

～ 1530年　神聖ローマ帝国カール五世（カルロス一世　1500年～１558年）
から包囲された時、フィオレンティーノを鼓舞するカルチョが行われた。

～1700年　メディチ家の衰退とともに終焉を迎える。
市民の娯楽はペロタ（今のスカッシュ）に移る。

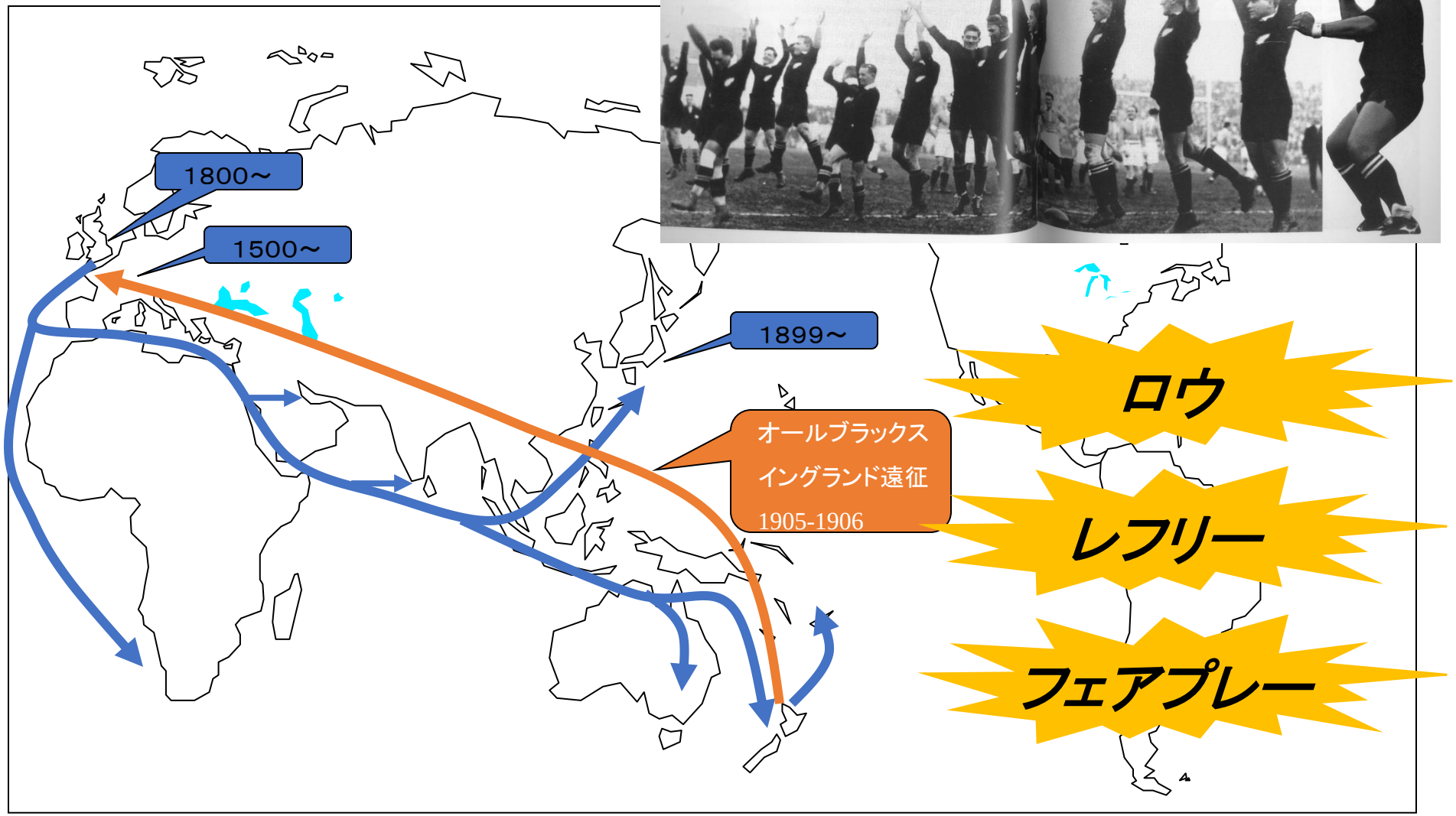
イングランド発祥のラグビーフットボール

1790 ― 1800 ― 1810 ― 1820 ― 1830 ― 1840 ― 1850 ― 1860 ― 1870 ― 1880 ― 1890 ― 1900

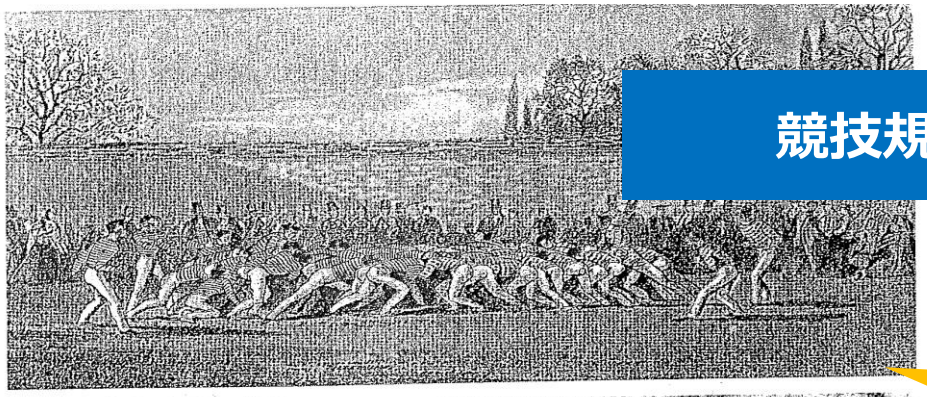
ルイ16世処刑93
ワシントンDC00
ナポレオン皇帝04
フルトン蒸気船07
スティーブンソン蒸気機関車14
英・奴隷制廃止
モンロー主義23
ナポレオン敗戦
仏7月革命30
ヴィクトリア女王
英・ニュージーランド40
アヘン戦争40-42
仏2月革命48
ロンドン博覧会51
クリミア戦争53
南北戦争61
英・選挙法改正67
英・初等教育法70
普仏戦争70
岩倉使節団出発71
岩倉使節団帰国73
西南戦争77
大日本帝国憲法89
帝国議会90
日清戦争94
日露戦争04

Cricket・イートンvsウエストミンスター96
Boat・オックスフォード学寮対抗戦15
ウエストミンスター・フットボール禁止20
ラグビー・ウエッブエリス23
Cricket・オックスブリッジ戦27
Boat・オックスブリッジ戦29
Athletic・イートン競技会37
ルール化・レフリー導入
ヴァーシティマッチ
ペリー来航53
日米通商条約58
Athletic・オックスブリッジ戦64
明治維新68
Boat・オックスハーバード戦69
Rugby・オックスブリッジ戦72
Soccer・オックスブリッジ戦74
横浜で船員ラグビー74
（レフリー　クーベルタン男爵）
仏ラシン・スタッドフランセ戦92
慶應大クラーク・銀之助99
第2回五輪パリ開催　初ラグビー00
イングランド・フランス初テスト05
オールブラックス英国遠征05

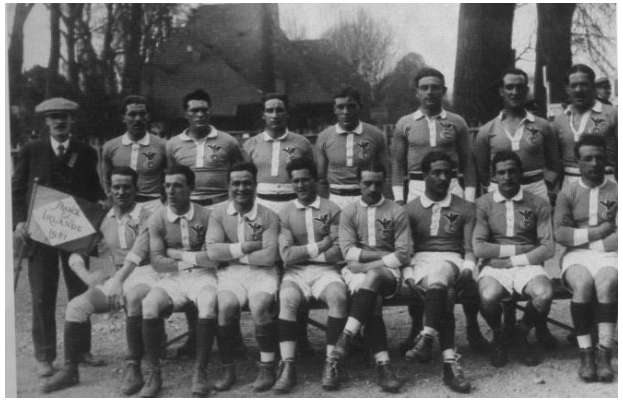
世界に伝播したラグビーフットボール

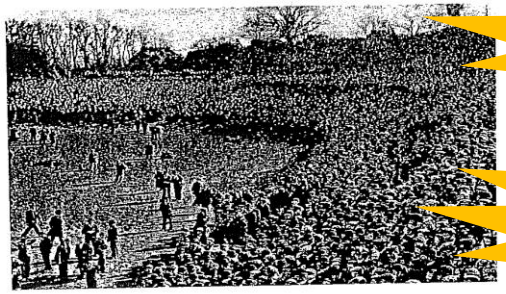


競技規則は Laws of the game



1830年代のウィンチェスター校の
20人制フットボール
(James Sabben-Clare "Winchester College,
After 600 Years, 1382-1982"
Paul Cave Publications Ltd. 1981.より)



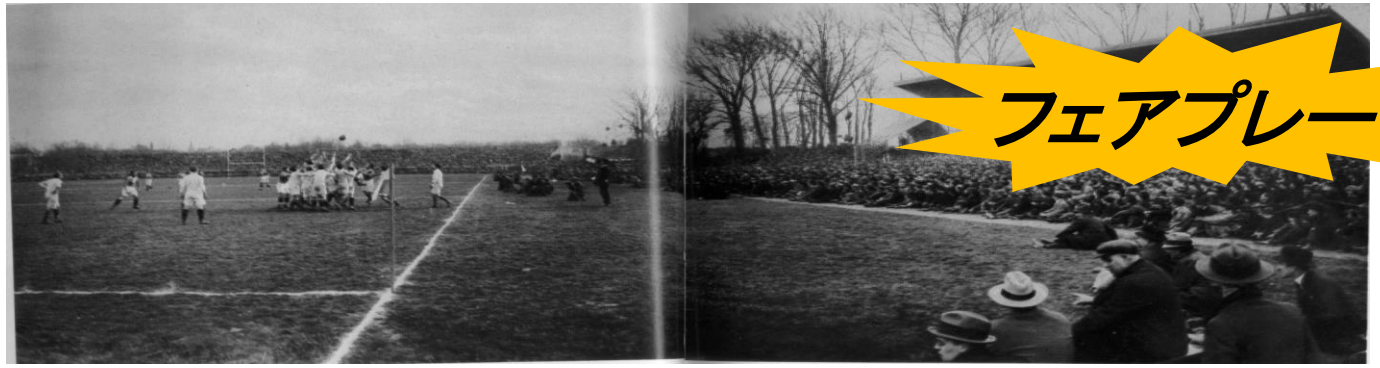


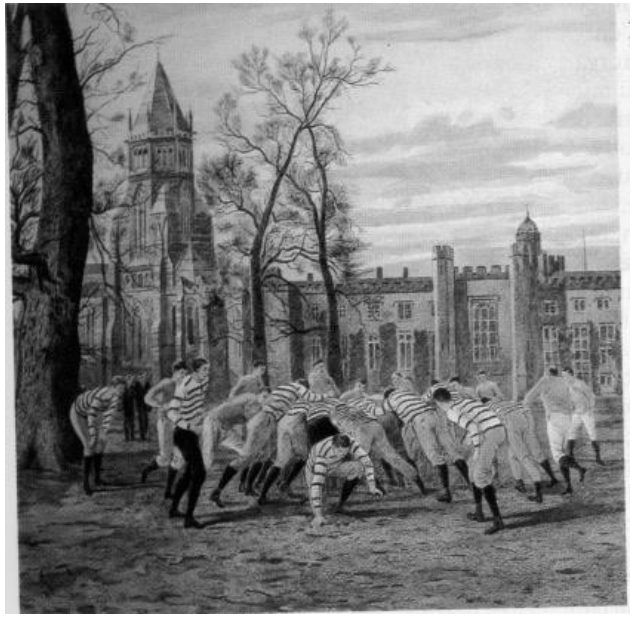
イングランドのクリスタルパレスでの
FAカップ決勝戦に集まった群衆（1901年）
(J.Hutchinson "The Football Industry"
Richard Drew Publishing 1982.より)

ロウ

レフリー

フェアプレー





law は、rule(決まり事)の中でも、
道徳や宗教にもとづく、人の道として守るべき規範
law : (Macmillan)
A rule or set of principles that people follow for moral or religious reasons.

ロウ

よりよく競争するために、
自分たちでルールを決める。
　ルールを破っても勝ちにいく
　　⇒互いにルールを超える
　　⇒ルールを変更しよう

レフリー

よりよく競争するために、
審判にジャッジを委ねる。
　審判がミスる
　　⇒人はミスるのが当たり前
　　⇒審判を審判しよう

競争

＝

フェアプレー

よりよく競争するために、正々堂々戦う。
相手に勝つことが一番⇒でも、相手がいないと勝てない⇒負けた相手も尊重しよう

ラグビー競技の歴史と発展

1823 1886 1987 1991 1995 1999 2003 2007 2011 2015 2019

1823
ウイリアム
ウエブ
エリス

1886
IRFB
(現ワールドラグビー)
創設

1987
ラグビーワールドカップ
初開催
ホスト国NZ＋AUS

1995
プロ化
&
ラグビー憲章

1995-96
欧州カップ&
スーパーラグビー
開幕

200年以降、ラグビーのプロ化が進んでいく

専門コーチの導入(ディフェンス、キック、スクラム　etc.)
S&C、栄養学、生物力学、分析を含むスポーツ科学の導入

競技規則
LAW

1968
交替は
2名まで

1991
ブラッド･ビン
導入
&
ラインアウトの
リフティングが
認められる

1996
戦術的入替
(3名まで)
導入

2000
競技規則
見直し

イエローカード

2001
TMO

2004
試験的実施
ルール
(ELV)
プロジェクト
開始

2007
ELV
トライアル
開始

2009
競技規則
改正
スコッド人数
23名へ

モール

スクラム
クラウチ･タッチ
･ポーズ･エンゲージ

2011
ラック
チャージ
リフティング
タックル

2013
競技規則
改正

TMO拡大

スクラム
クラウチ
･バインド
･セット

2015

HIA

高い位置の
無謀な
タックル

2017
競技規則
改正

競技規則の
簡素化

スクラム
フッカーは
ヒットしなければ
ならない等

主要なゲーム要素

	1987	1995	2003	2011	2018
パス	184	179	281	263	338
ラック／モール	60	91	172	176	211
キック	67	64	58	52	43
スクラム	32	24	21	16	14
ラインアウト	49	38	38	27	24
ラック/モール / スクラム/ラインアウト	74%	147%	292%	409%	555%

ボールの争奪は、全体的にセットプレーから
オープンプレーにシフトしているため、現在で
はラック回数はセットの6倍となっている。

過去のどの時点よりも現在の方が、
各試合で行われるパスおよびラック／モールの回数が増え、
スクラム、ラインアウト、キックの回数が減っている。

制裁措置

	1987	1995	2003	2011	2018
ペナルティ	22	20	21	17	18
フリーキック	1	3	2	1	1
ラックでのPKの割合	18%	29%	46%	45%	51%
スクラムでのPK／FKの割合	6%	7%	13%	27%	18%
不正なプレーでのPKの割合	18%	13%	11%	4%	9%
オフサイドでのPKの割合	30%	22%	18%	11%	10%
イエローカード	n/a	n/a	2.4試合に1回	11試合に1回	3.2試合に1回

現在はラック回数が増えたため、ラックでのペナルティの回数も増えた。

ラグビーがプロ化する前はスクラムが多かったが、ペナルティの割合は低かった。

- プレーが止まらない時間が長くなった
- 動きが詰まったものとなった。
- 15人の競技から23人の競技へとシフト
- どのプレーヤーも体重が大幅に増えた

次のことが発生。
- スペースの欠如
- 争奪の欠如
- スクラムの重視
- 疲労の軽減　交替による
- 遅延の増加

ボールインプレーの時間が増え、プレーのスピードが速くなり、
プレーが頻繁に泊まることなく、コンタクトが大幅に増えた。

ラグビー憲章

ラグビーのゲームについて話し合う際は、

その内容はラグビー憲章を踏まえたものでなければならない。

次のスライドに、ラグビー憲章の中に含まれる基本原理を示す。

WORLD RUGBY

“Playing Charter Introduction”

A game which started out as a simple pastime has been transformed into a global network around which vast stadia have been built, an intricate administrative structure created and complex strategies devised. Rugby union, in common with any activity which attracts the interest and enthusiasm of all kinds of people, has many sides and faces.

Rugby is played by men and women and by boys and girls worldwide. More than 8.5 million people aged from six to 60+ regularly participate in the playing of the game. The wide variation of skills and physical requirements needed for the game mean that there is an opportunity for individuals of every shape, size and ability to participate. Apart from the playing of the game and its ancillary support, rugby embraces a number of social and emotional concepts such as courage, loyalty, sportsmanship, discipline and teamwork. What this charter does is to give the game a checklist against which the mode of play and behavior can be assessed. The objective is to ensure that rugby maintains its unique character both on and off the field. The charter covers the basic principles of rugby as they relate to playing and coaching, and to the creation and application of the laws. It is hoped that the charter, which is an important complement to the laws, will set the standards for all those who are involved in rugby, at whatever level.

ラグビー憲章　序文

あるゲームが、単なる娯楽として始まったのち、たくさんのスタジアムが建てられ、運営体制が整備され、複雑な戦略が考え出されるようになり、グローバルなネットワークを持つスポーツへと変化を遂げた。ラグビー（ラグビーユニオン）には、さまざまな人の関心や熱意を集める他の活動と同じように、いろいろな側面や顔がある。ラグビーは、世界中の老若男女によってプレーされている。普段からラグビーをしている人の数は、6歳から60歳を超える年齢幅で850万人以上もいる。ラグビーではさまざまなスキルや身体要件が求められるので、あらゆる体形、体格、および、能力を持つ人に参加する機会が与えられている。

ラグビーでは、競技そのものや競技のサポート以外にも、勇気、忠実さ、スポーツマンシップ、規律、チームワークなど、いくつもの社会的、そして、情動的な概念を大事にしている。この憲章は、ラグビーにおける競技のしかたやふるまいの一つずつを確認するためのものであり、フィールドの内外でラグビー独自の特性を維持していくことを目的としている。

この憲章には、プレーやコーチング、そして、競技規則の制定や適用にも関係するラグビーの基本原則が記されている。この憲章は、競技規則の重要な一部であり、レベルを問わずラグビーに関わるすべての人を対象とした基準を示すものとなる。

“Playing Charter Principles of the game”

Conduct

The legend of William Webb Ellis, who is credited with first picking up the football and running with it, has doggedly survived the countless revisionist theories since that day at Rugby School in 1823. That the game should have its origins in an act of spirited defiance is somehow appropriate.

At first glance it is difficult to find the guiding principles behind a game which, to the casual observer, appears to be a mass of contradictions. It is perfectly acceptable, for example, to be seen to be exerting extreme physical pressure on an opponent in an attempt to gain possession of the ball, but not wilfully or maliciously to inflict injury.

These are the boundaries within which players and referees must operate and it is the capacity to make this fine distinction, combined with control and discipline, both individual and collective, upon which the code of conduct depends.

ラグビー憲章　ゲームの原則

品行

1823年、イングランドのラグビー校においてウィリアム・ウェブ・エリスがフットボールの試合中にボールを拾い上げ手に持ち走り出した、という伝説がある。この伝説はその日以来、数えきれないほどの否定論が出ながらも残ってきた。彼の果敢な挑戦から生まれたその行動にラグビーの起源があるに違いないと考えるのは、適切であると言えよう。

一目見ただけでそのスポーツの基本理念/原則を見つけることは難しく、あまり見たことがない人からすると矛盾ばかりに見えてもおかしくない。例えば、ボールを獲得しようとする際に相手に対して強烈な身体的プレッシャーを与えているように見えても、それは決して、故意に、または、悪意を持って怪我をさせようとしているのではないことがわかれば、納得がいく。

これらはプレーヤーやレフリーが持っているべき境界線であり、個人でも集団でも、自制や規律を持ち合わせながらそのわずかな違いを区別できる能力こそが、行動規範のよりどころとなる。

“Playing Charter Principles of the game”

Spirit

Rugby owes much of its appeal to the fact that it is played both to the letter and within the spirit of the laws. The responsibility for ensuring that this happens lies not with one individual - it involves coaches, captains, players and referees.

It is through discipline, control and mutual respect that the spirit of the game flourishes and, in the context of a game as physically challenging as rugby, these are the qualities which forge the fellowship and sense of fair play so essential to the game’s ongoing success and survival.

Old-fashioned traditions and virtues they may be, but they have stood the test of time and, at all levels at which the game is played, they remain as important to rugby’s future as they have been throughout its long and distinguished past. The principles of rugby are the fundamental elements upon which the game is based and they enable participants to immediately identify the game’s character and what makes it distinctive as a sport.

ラグビー憲章　ゲームの原則

精神

ラグビーの魅力の多くは、競技規則の条文を文言通りに守りながら、競技規則の精神に則ってプレーされている事実によるものである。そうなるようにする責任は、だれか一人にあるのではなく、コーチ、キャプテン、プレーヤー、そして、レフリーのそれぞれにある。

ラグビーの精神は、規律、自制、相互の尊重があってこそ繁栄するものであり、ラグビーのような身体的に激しいゲームにおいては、そういったものこそが、ラグビーの継続的な成功と存続に必要不可欠な仲間意識やフェアプレーに対する意識を築く資質となるのである。

それらはどれも古めかしい伝統や美徳かもしれないが、時代を越えて普遍的な考え方であり、その由緒ある過去でもそうだったように、あらゆるレベルのラグビーの未来にとって大切なものとして存在し続けている。ラグビーの原則は、ゲームをつくる基本的な要素であり、参加する人がラグビーの特性や他のスポーツとの違いをすぐにわかるようにするものである。

“Playing Charter Principles of the game”

Object

The game’s objective is to score as many points as possible against an opposing team by carrying, passing, kicking and grounding the ball, according to the laws of the game, its sporting spirit and fair play.

Contest and Continuity

The contest for possession of the ball is one of rugby’s key features. These contests occur throughout the game and in a number of different forms. (snip)

As one team attempts to maintain continuity of possession, the opposing team strives to contest for possession. This provides the essential balance between continuity of play and continuity of possession. This balance of contestability and continuity applies to both set piece and open play.

ラグビー憲章　ゲームの原則

目的

ラグビーという競技の目的は、競技規則、スポーツマンシップ、そして、フェアプレーの精神に則って、ボールを持って走り、パスやキック、そして、グラウンディングをして、相手チームに対して可能な限り多くの得点を挙げることである。

ボールの争奪と継続

ボールの争奪は、ラグビーの大きな特徴の一つである。ボールの争奪は、試合を通じて、いろいろな形で起こる。(中略)

一方のチームがボールを保持し続けようとすれば、相手チームはそのボールを奪おうとする。このことが、プレーの継続とボール保持の継続との間に必要不可欠なバランスをもたらす。この争奪性と継続性のバランスは、セットプレーとオープンプレーの両方にあてはまる。

“Playing Charter Conclusion”

Rugby is valued as a sport for men and women, boys and girls. It builds teamwork, understanding, co-operation and respect for fellow athletes. Its cornerstones are, as they always have been, the pleasure of participating; the courage and skill which the game demands; the love of a team sport that enriches the lives of all involved; and the lifelong friendships forged through a shared interest in the game.

It is because of, not despite, Rugby’s intensely physical and athletic characteristics that such great camaraderie exists before and after matches. The long standing tradition of players from competing teams enjoying each others company away from the pitch and in a social context, remains at the very core of the game.

Rugby has fully embraced the professional era, but has retained the ethos and traditions of the recreational game. In an age in which many traditional sporting qualities are being diluted or even challenged, Rugby is rightly proud of its ability to retain high standards of sportsmanship, ethical behavior and fair play. It is hoped that this Charter will help reinforce those cherished values.

ラグビー憲章　結辞

ラグビーは男性・女性、少年・少女のためのスポーツとして、チームワークや仲間への理解、協力、尊敬を築く。ラグビーにとって、初めからずっと基礎になっていることは、参加する楽しさ、ゲームでの勇気と技術、携わるすべての人の人生を豊かにするチームスポーツへの愛着、ゲームを通して深まる終生の友情、である。

ラグビーが激しい格闘なので、ゲームの前にも後にも深い友情がある。チーム同士の選手たちがフィールドを離れたあとで、社会生活のなかでもずっと仲間であることは、長く続くラグビー選手たちの伝統であり、それがゲームの要であることは変わらない。

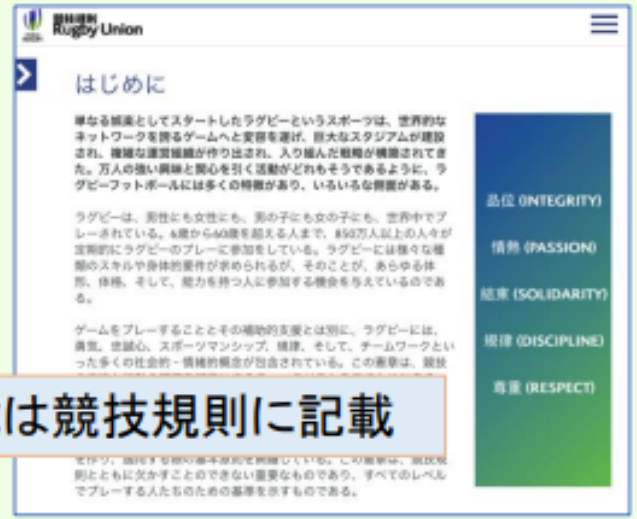
ラグビーは、プロであってもそうであるが、自らの人生を楽しむゲームという伝統と精神を保っている。多くの伝統的スポーツの性質が失われるか、あるいはその性質が疑われている時代に、ラグビーは、スポーツマンシップの高い水準、道徳的なふるまい、フェアプレーを保つことの可能性を誇るにふさわしいものである。

この憲章が、これらラグビーの賛美するべき価値を再認する一助となることを希望する。

「インテグリティ追求」について

ラグビーの価値を高める5つの要素が**「ラグビー憲章」**の中で述べられています。ひとつひとつがとても重要な意味を持っていますが、インテグリティは、すべての土台になる基本の姿勢・精神と言えます。

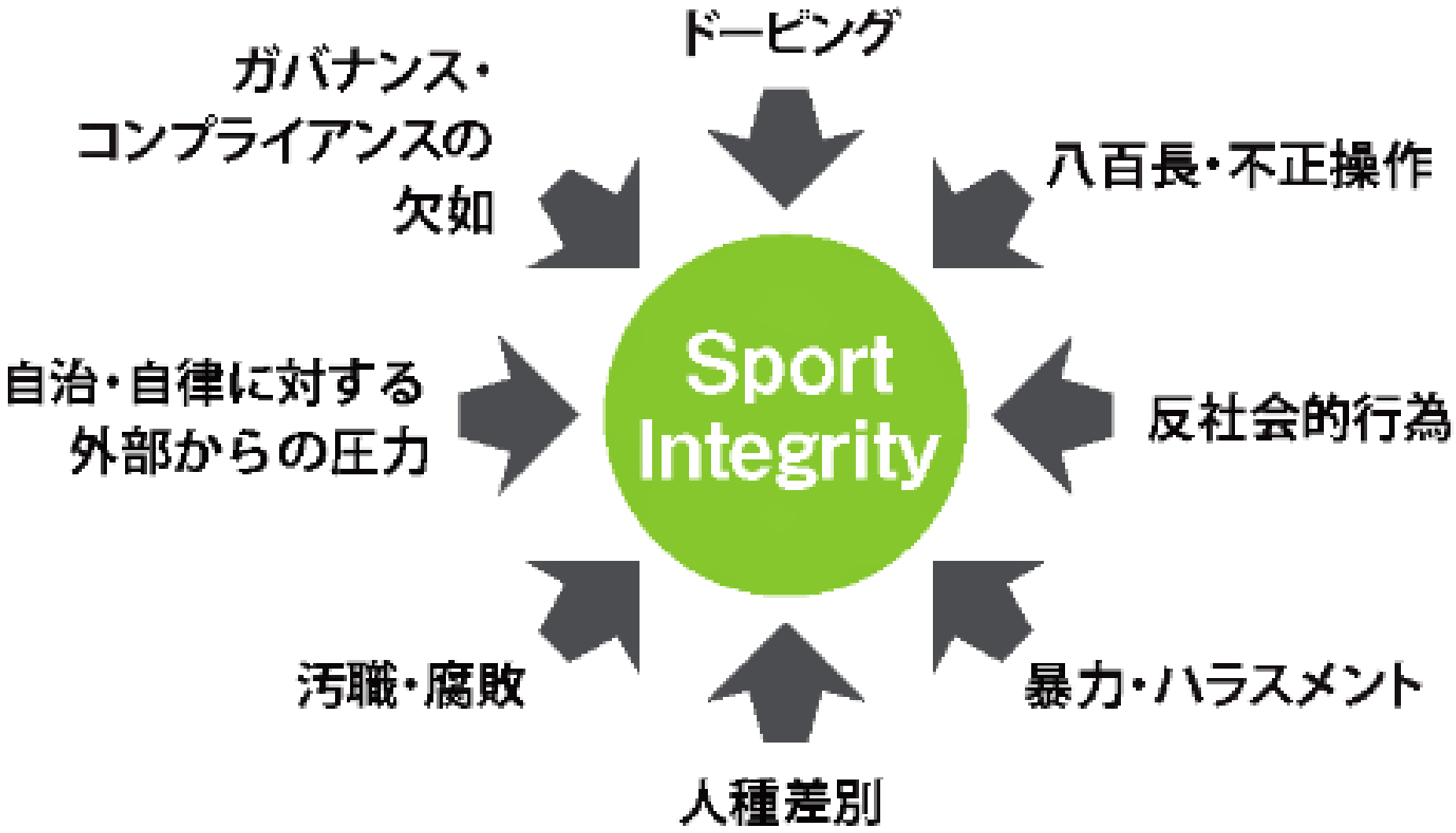
- **品位　INTEGRITY**
- **情熱　PASSION**
- **結束　SOLIDARITY**
- **規律　DISCIPLINE**
- **尊重　RESPECT**



ラグビー憲章は競技規則に記載

ラグビーに関わる人々(選手、指導者、観客、選手の家族、協会関係者など)に、ラグビーの場だけでなく日常生活や社会生活の場において、インテグリティという言葉が意味するところの「品位」「高潔さ」「健全性」を実現するための行動が求められます。

スポーツ・インテグリティを脅かす要因



「インテグリティ相談窓口」の設置

インテグリティに反する行為に対応するための「インテグリティ相談窓口」を設置（2018.4）

< 外部弁護士による対応 >

インテグリティ相談窓口

https://www.rugby-japan.jp/support_center

インテグリティ相談窓口は、日本ラグビーフットボール協会が策定している「倫理及び処分規程」に違反する行為に対処するために設置された自己浄化・自己修復の仕組みです。

【受付件数(2018-2020年度)】

2020年12月末時点

	スクール	中学	高校	大学	社会人	クラブ	その他	合計
2018	1	1	2	4			1	9
2019			2	1	2	1	1	7
2020		1	1				2	4

どちらもダウンロード可能

コンプライアンスの学習資料

平成29年度スポーツ庁スポーツ界コンプライアンス強化事業

「スポーツ団体のためのコンプライアンス・ハンドブック2018」

https://rugby.dweblink.jp/images/コンプライアンス・ハンドブック%20(2).pdf

日本財団パラリンピックサポートセンター

『マンガで学ぶスポーツコンプライアンス
～アスリートが知っておくべき大切なコト～』

https://www.parasapo.tokyo/topics/1860

ラジオドラマで学ぶ「スポーツコンプライアンス」全12話
https://youtube.com/playlist?list=PLo922F3SaObzI-7IQXE2LVa5JXxowQDcx

「スポーツ指導者のための倫理ガイドライン」
(日本スポーツ協会ホームページ)

スポーツ指導者のための倫理ガイドライン

スポーツの意義や価値が改めて問われている昨今、日本体育協会では、スポーツ指導者の望ましい考え方や行動についてガイドラインを策定いたしました。
本ガイドラインでは 「スポーツの価値」「プレーヤーズファースト」「フェアプレー」の視点から、安全で、正しく、楽しいスポーツ活動をサポートするためのプレーヤーと指導者の望ましい関係づくりについて解説しています。
また、暴力やハラスメントなどの反倫理的行為が起きる背景や影響、指導者としての注意点なども網羅しています。
スポーツ指導者はもちろんのこと、保護者や審判員、運営担当者など、スポーツに関わるすべての方にご一読いただき、本ガイドラインの趣旨を共有することで、スポーツ界から反倫理的行為を根絶するための一助となれば幸いです。

<内容>
Ⅰ．スポーツの意義と価値
Ⅱ．スポーツ指導者の役割
Ⅲ．スポーツ指導者の心得
Ⅳ．倫理的問題が起こらないために
Ⅴ．資料編

全文ダウンロード

http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/677/Default.aspx#book01

日本ラグビー界におけるパワハラ・体罰問題

日本のスポーツ界の指導において暴力・暴言がいまだに多く存在しているとの指摘があるが、ラグビーにおいても、以下のように各カテゴリーからパワハラ・体罰の事案が発生していることに加えて、協会への匿名電話で問題状況が指摘されており、抜本的な対応が求められる。

下記の状況に加え、国際人権NGO「ヒューマン・ライツ・ウォッチ」（HRW）が7月20日に発表した「日本のスポーツ現場における子どもの虐待やハラスメントの調査結果」への対応も必要

✓各カテゴリーにおけるパワハラ問題

参考までに各カテゴリーで発生している事案を紹介

年度	カテゴリー	内容
2018	ラグビースクール	コーチから「ラグビーを辞めろ」「ラグビーをする資格がない」などで約10分間、一方的に怒鳴り続けられた。
2020	中学	顧問より1か月のボール拾いを命じられたり『お前ボコボコにするぞ』と発言があった。
2019	高校	夏合宿で飲酒をしたコーチが部員に対して暴行（全治3週間）
2020	大学	コーチが特定の選手に対して飲酒の強要や暴行を行っていた。

子どものセーフガーディング

「組織の役職員・関係者によって、また事業活動において、子どもにいかなる危害も及ぼさないよう、つまり虐待・搾取や危険のリスクにさらすことのな いよう努めることであり、 万一、活動を通じて子どもの安全にかかわる懸念が生じたときには、 しかるべき責任機関に報告を行い、それを組織の責任として取り組むこと」 Keeping Children Safe(セーフガーディング国際NGO) による定義、2014

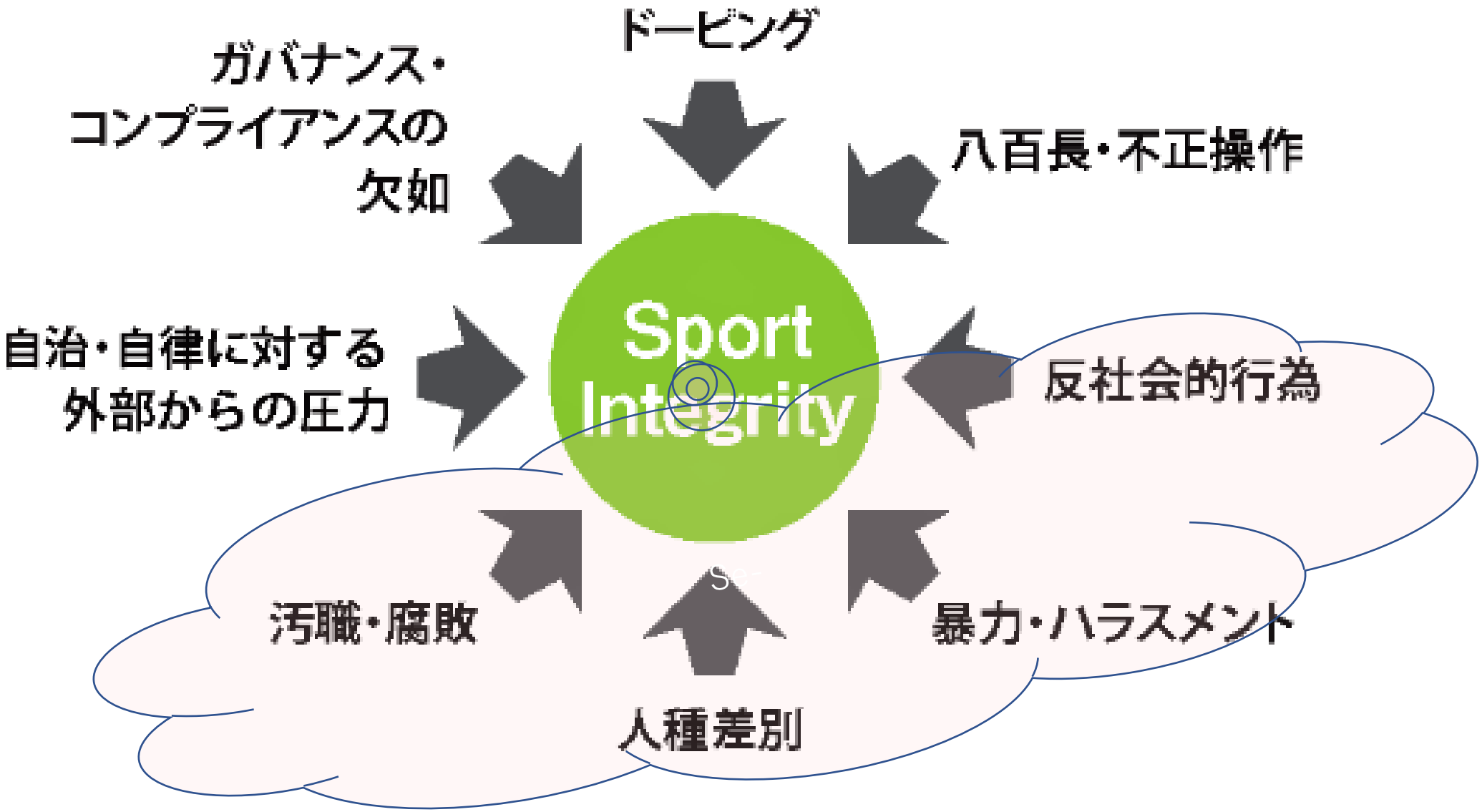
援助関係者によってなされる人為的な有害行為だけでなく、無知や過失によるものや、偶発的な事故のリスクからも守ることが求められている。また、セーフガーディングの取組範囲は 幅広く、リスク削減や安全な事業設計から、人材採用、スタッフへの啓発、通報制度、事案調査や人事処遇、再発防止までの多くの要素からなり、包括的な取組が必要とされている。
セーフガーディングとは、役職員や関係者が、日々の事業や運営において、 子どもや弱い立場の人々の尊厳を傷つけたり、危険にさらしたりすることのないように、組織と して取り組むべき責任である。

守るべき対象としては、子どもだけでなく、若者、おとなの事業 受益者や、弱い立場にある人を広く含めるべきなど、様々な議論が展開されているところである。JRFUは、「子ども」に対するセーフガーディングの取組を優先することとしている。

なお、「セーフガーディング」と類似・近接した言葉で、PSEA （Protection from / Prevention of Sexual Exploitation and Abuse; 性的搾取・虐待の防止） または PSEAH （Protection from / Prevention of Sexual Exploitation, Abuse and Harassment; 性的搾 取・虐待およびハラスメントの防止）という用語がある。

援助関係者による性的搾取・虐待およ びハラスメント行為の防止を目的としたもので、あらゆる年齢層、受益者、および職員やボランティアをも守るべき対象としている。これに対し、セーフガーディングは、性的な問題に限らず、体罰や暴言、ネグレクトなどあらゆる形態の暴力や不適切行為、不慮の事故なども含めた危険から守ることを目的としている。

セーフガーディングと PSEA(H)の取組は重複する部分も多 く、各々の取組が相互に与える影響も大きい。

スポーツ・インテグリティを脅かす要因

根っこを絶つためのセーフガーディング